

2026/1/25 「聖霊行伝」使徒2:36-42

信仰告白・生活綱領 さ 4 せ569 (603)

「1月は行く」の通り、早くも、ひと月が過ぎようとしています。2月は、いよいよ教会創立80周年記念月間です。冬季五輪も始まりますね。一年で最も寒い季節ですが、赤々と燃える炭火のように、心燃やされる日々でありますように。

悔い改めと洗礼

使徒言行録は、ルカによって記された、福音書の続編です。『第二楽章』は、最初のテーマを引き継ぎながらも、より高度な展開を見せます。それは、私たちの歩みにおいても、同じだということができます。つまり、「キリストに出会う」「キリストを知る」という段階から、「キリストを信じる」「キリストと共に歩む」というステップに進むということです。

初級編から、中級、上級へと、音楽でもスポーツでも、私たちは進んでいきます。上達すれば、それだけ楽しく、面白くなりますが、それだけ難しくもなります。キリストを信じる、共に歩むということも、実はそうなのです。具体的には、悔い改めて、聖霊を受けるということです。悔い改めとは、やり直しの命令です。完成は、イエス様の姿です。

それにならって、聖書を読み、絶えず祈り、礼拝で心から賛美し、時と宝と力を捧げ、おりを得ても得なくても、伝道するのです。人生を後悔で終わらせないためには、力いっぱい命を燃やすことです。魂を救うのは、自分の城ではなく、死をも滅ぼす力を示されたイエス様なのです。その声に従って、悔い改めて、また今日を生きていきましょう。

それは、やり直しですが、繰り返しではありません。まっさらではありませんが、価値は下がりがありません。洗礼は、そのことを証明する、神の国との契約です。バックスライドは皆が経験しますが、このストッパーがあるので、誰も永遠の命を失うことはありません。あーあ、自分はダメだなあ、と落ち込むとしても、また天国を目指して、歩んでいきましょう。

聖霊の働きに従う

悔い改めと洗礼に続く、もう一つのペトロの説教は、聖霊の賜物を受けている、ということです。神の霊が、我がうちに働いているということです。私たちは、生涯で一度も、肉眼では、動いている心臓を見ることはできません。脳内血管を、確認することもできません。けれども確かに人の数だけ、現実にそれは存在し、流れています。聖霊の働きも、少し似ていて、目には見えず、また本人さえ自覚できなくても、それは確かに働いています。ヒートショックを予防するように、不摂生をしないように、私たちも聖霊の働きを妨げるものを、その生活から取り除かなければなりません。聖霊を喜ばせるものは、ガラテヤ5章にあるように、愛であり、喜びと平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。

一方で、「聖霊の声は、いつも私を不機嫌にさせる」という言葉があります。なんで、神様は、もっと私のことをわかってくれないんだろう。肉なる人間は、ついそう思うってしまうからです。でも、禁止事項を言う医者に反発するように、この忠告を受け取ってはいけません。この勧めは、心からの同情と親切から、励ましてくれている、メッセージなのです。

「聖霊行伝」は、更生教会の牧師であられた、安倍豊造先生の著書名です。主の祈りになぞらえて、8巻ほど発行されました。ホーリネス弾圧と、教会の歩みと、信仰のメッセージが、地続きに綴られています。私たちの生き様も、使徒言行録2026章1節です。自慢話や、報告や解説だけでは、聖霊行伝にはなりません。痛みも改心もあってこそ、奇跡と感動が、そこに起こります。救われたいと願う人々が、その証しを聞きたいと待っているのです。